

## 第7回 鶴岡市地域医療を考える市民委員会（会議概要）

- 日 時 令和3年 6月 9日（水） 午後1時00分から3時00分
- 会 場 鶴岡市役所 別棟2号館 21、22、23号会議室
- 次 第 1 開 会
- 2 あいさつ
- 3 説明・報告・協議
  - （1）事務局説明  
鶴岡市地域医療市民アンケートの実施概要について  
事務局 鶴岡市 地域包括ケア推進室
  - （2）講 話  
アンケート調査実施のポイントについて  
慶應義塾大学 環境情報学部 教授  
鶴岡市地域医療を考える市民委員会 コーディネーター  
秋山 美紀 氏
  - （3）協 議  
鶴岡市地域医療市民プレアンケートの実施について
- 4 その他
- 5 閉 会
  
- 出席委員  
瀬尾利加子（委員長）、本間志保子（副委員長）、北風寸美、木村博之、佐藤明美、土田三香子、原田藤四郎、本間優子、真島正博、水口英俊  
秋山美紀（コーディネーター・オンライン参加）、福原晶子（オブザーバー）、八木実（オブザーバー）、鈴木聡（オブザーバー）
- 市側出席職員  
市長 皆川治、健康福祉部長 渡邊健、地域包括ケア推進室長 佐藤清一、地域包括ケア推進室主査 齋藤芳、同室主査 佐藤正、同室調整専門員 伊藤健、同室主事 三浦巧、荘内病院事務部長 佐藤豊、同参事（兼）総務課長 今野一夫、同医事課長（兼）地域医療連携室主幹 土田信一、同地域医療連携室室長補佐 富樫 清
- 公開・非公開の別 公開
- 傍聴者の人数 3人
- 審議事項  
「鶴岡市地域医療市民プレアンケートの実施について」
- 委員発言要旨
  - （1）事務局説明  
鶴岡市地域医療市民アンケートの実施概要について  
事務局 鶴岡市 地域包括ケア推進室

委員長：ただ今の事務局の説明について、質問・意見ある方お願いします。

特に意見が無いようなので、今後事務局の提案のとおり進めます。

## (2) 講 話

アンケート調査実施のポイントについて

慶應義塾大学 環境情報学部 教授

鶴岡市地域医療を考える市民委員会 コーディネーター

秋山 美紀 氏

委員長：今のコーディネーターの講話を聞いての質問や意見、感想などをお願いします。私の方から1つ質問よろしいでしょうか。今、「パイロット調査」と「プレアンケート」という言葉が出ましたが、今回のアンケートはプレアンケートという感覚でよろしかったでしょうか。

コーディネーター：パイロット調査というのは、その質問紙で本当に大丈夫なのかということをもう少し小規模でやってみるというイメージになると思う。一方、プレアンケートとは、一般的には「事前アンケート」という意味で使われることが多い。今回のアンケートの位置づけをどのように考えているのかわからないが、パイロット調査というには少し規模が大きいかもしれない。いずれにしてもこの調査は、鶴岡市民全体ではなく、あくまで市民委員の所属する団体の構成員を対象に行うわけなので、知ることができるのはその団体の構成員の意見であり、それを念頭において調査する必要がある。

委員：だいたい何分ぐらいのアンケートがよいのでしょうか。ちなみに今回私は記載するのに20分ぐらいかかり、長いと思った。

コーディネーター：逆に皆さんにお尋ねします。実際、このアンケートが長いと思った方は挙手を願います。(挙手6名)皆さんが長いと思うものは、長いと思う。質問項目をもう少し絞った方がいいと私は思う。

委員：先生の講話を聞いてから、アンケート作成したほうがよいと思った。

委員：実際に鶴岡市民を代表するサンプルとは、どういった方を対象とすればよいか。先生の経験から教えていただきたい。

コーディネーター：このアンケートの目的が、将来の鶴岡市の医療がどうあるべきか、5年後、10年後の鶴岡市の医療に焦点を当てるとすると、若い子育て世代に重きを置いた方がよいと思う。一方、現在の医療の改善に活かしたいということであれば、現在医療にかかっている人、ご高齢の方々も含めた対象に焦点をあてて調査する必要があると思う。やはりアンケート調査から得られた結果をどう活かしていくかということが判断のポイントになる。このアンケートをどう活かしたいか、今一度、皆さんで議論していただければと思う。そのきっかけとして、本日講話させていただいた。

### (3) 協 議

鶴岡市地域医療市民プレアンケートの実施について

#### ① 事務局説明

鶴岡市地域医療市民プレアンケートの実施について

事務局 鶴岡市 地域包括ケア推進室

委員長：それでは1つずつ検討していきたいと思う。実施方法の確認ですが、グーグルフォームを基本とし、難しいということであれば紙ベースで行う。郵送は難しいのでアンケートを手配りすると考えてよろしかったでしょうか。

事務局：すぐにグーグルフォームを利用するのは、難しいと思うので、資料4の各団体の実施可能な方法で行なっていただきたい。グーグルフォームの使える環境も並行して設定したいと考えている。

委員長：資料4を見ながら、実施方法を検討していきたいと思います。

(各委員より各所属団体における実施方法について意見あり)

委員：先程、コーディネーターの講話でアンケートの回収率を上げるためにはとのお話がありましたが、鶴岡市は当然ですが、例えば荘内病院、鶴岡協立病院、鶴岡地区医師会など皆さんの協力無くしては、地域医療の発展は考えられないため、アンケートの表紙にこれら各関係団体の名称も載せた方がいいのではないかと。

委員長：ありがとうございます。このことも含めて、今後、検討していきたいと思う。ご意見ありがとうございました。

委員長：皆様からの意見をまとめますと、紙ベースとグーグルフォームの両方の対応となりそうです。紙は人数分印刷してお渡しします。対象の年代については、20代～70代、お住いの地域も鶴岡市全域、朝日地域も藤島地域も含まれているようですので、皆様のご協力のもと、出来るだけ多くご回答いただいて、アンケートを集めていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

続いて、アンケート実施のスケジュールですが、先程6月21日には配りたいという団体がありますので、それまでにはアンケート項目を確定し、7月1日～31日までに所属団体の構成員にアンケートをしていただきます。8月上旬にはアンケートをまとめて、次回、第8回市民委員会に結果を報告するという、とても忙しい流れになります。皆様からの回収が早くなれば、アンケートのまとめも早くなる。引き続き、皆さんと一緒に頑張っていきたいと思っております。また、このアンケートで集まった意見は、今後のアクションプランに活かされるということになります。プレアンケートなので、「ここ書きにくかった。」などの声も集めていただければと思っております。令和4年度の本アンケートにも生かせるものと考えます。

ここまでで、何か質問はありますか。

委員：私は看護師のことしか考えなかったが、アンケートの対象者を増やした方がよいのか。人数を増やした方がよければ、組織全体へ配布することは可能である。

委員長：皆さん、いかがでしょうか。看護師だけではなくて、いろいろな職種がいた方がよいと思いますか。

委員：例えば、数を増やした方がよければ、幼稚園連合会の方も数を増やしますし。ただ、保育園が290人で幼稚園も増やすとなると、大半が子育て世代の若い人たちとなり、偏ってしまう。

委員長：コーディネーター、いかがでしょうか。

コーディネーター：いろいろな人が混ざっていてよいと思う。

委員長：対象を広げて、人数はあまり多くならないように検討していただく。

委員：表紙に市長の名前を入れてはどうか。重みがでると思うが、いかがか。

事務局：せっかく皆さんで議論してきたので、市民委員会という名前でアンケートを行ってきたいと考えている。今後、来年度以降、本調査ということで経年的に実施するということもあるので、その時に関係機関とも相談させていただきたいと思う。

委員：最初からさまざまな関係機関の名前があるとぼやけてしまうので、来年度の本調査のときに市長等の名前を入れることを検討すればよいと思う。最初のプレアンケートは「市民委員会」の名前でよいと思う。

委員長：市民委員会自体を知らない方が多いと思うので、アンケートの前段に説明書きを1枚付けるとか、可能でしょうか。

事務局：回答しやすいように、説明書きを付けることは可能。そのように対応させていただきたいと思う。また、先程委員よりお話のありました幼稚園・保育園の調査対象者が330人いるとか、生協の看護師の方が150人おり、母集団が偏る件については、事務局で調整させていただきたいと思う。現在、事前の調査において、調査可能対象者が756人いるため、これだけあれば十分と考えている。

委員長：それではプレアンケートは市民委員会の名前でお願いし、本アンケートにて三師会などの関係団体の名前出していくか検討することとしてよろしいでしょうか。市民委員がアンケートを渡すときに、その辺も説明いただければと思う。

委員長：それでは、最後に調査項目という大事ところになりますが、アンケートVer. 3の改善点等、発言をお願いします。

委員：地域医療について、自分の考えを記載するという事は、とてもいいことだと思う。

委員長：他に意見ありますか。無ければ、私から1つ。問29の「これまで」という表現は、いつからか気になった。

コーディネーター：私からもアンケート項目で気になった点を何点か指摘させていただく。

まず表紙には、おおよその所要時間を記載した方がよい。特にウェブ調査の場合は全体量が見えないので冒頭に所要時間の記載が必要。

次に問1は、「あなた（受診者）の年齢」と聞いているが、これは医療機関で実施する調査でないで回答者は混乱してしまうと思う。単にこのアンケートの回答者のことを聞けばよいのではないか。ご検討ください。

次に問8は、もともとの質問に業種と職種が入り混じっていたことを前回指摘したので、それを踏まえて今回事務局で大幅に変更したかと思うが、これで本当に聞きたいことを聞けるのだろうか疑問に思う。この質問で聞きたいことが何なのかが問題。もともとは回答者が医療職や介護職なのか、一般の方なのかを聞いたかったのではないかと思うが、今の質問ではそれは把握できない。これで本当によいか再検討願いたい。

次に問22になりますが、満足度の尺度は一番高いものと低いものが両端にくるもので、「どちらでもない」は真ん中にくるものである。今の選択肢の順番だと解析のときにミスが起きやすいと思う。「わからない」は最後でいいが、「どちらでもない」は真ん中に配置するのがよいと思う。問38も同じ聞き方もしている。

最後に、各団体からのアンケートなので、母集団の団体行動がわかるように、もちろん無記名だが、団体コードをつけて母集団・団体の行動がわかるようにしておくで後から分析できる。たとえ母集団に偏りがあるとしても、傾向をつかむことができる。グーグルフォームの場合は、たとえば木村委員が発信するURLが幼稚園・保育園のアンケート調査だと紐づけができれば、傾向がつかめる。以上、ご検討ください。

委員長：今、先生よりお話のあった件については、改善、修正をお願いします。

事務局：はい、わかりました。貴重なご意見いただきありがとうございます。

委員長：今後、アンケートの改善点があった場合は、どうでしょうか。

事務局：1週間後の6月16日（水）まで、事務局に意見をお願いします。

委員長：皆さん、いろいろと貴重な御意見いただき、ありがとうございました。やっと、皆さんのご協力により、アンケート項目までたどり着きました。これを踏まえ、アクションプランを策定するだけではなく、その先もあるので、引き続きアンケートを何のために取る

のか、データの使い方をイメージや想像力を膨らませて、引き続きご協力お願いします。  
これで3.「説明・報告・協議」を終わります。